

ニュースレター News Letter

No.
9

<http://www.kochi-u.ac.jp/imt/>

2014.10

Promotion Program for Young Scientists and COE for Innovation of Marine Science and Technology



INDEX

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 機構長就任のご挨拶 |
| 2 | 「マリンバイオテクノロジー」集中講義 |
| 2 | 国際学会等派遣報告(田中特任助教) |
| 3 | 国際学会等派遣報告(椿特任助教) |
| 3 | 国際学会等派遣報告(三浦特任助教) |

機構長就任のご挨拶

高知大学理事(研究担当)・副学長
若手研究者評価支援機構 機構長
田口 博國



本年5月1日小槻前機構長の後任として就任しました。本学の「イノベティブマリンテクノロジー研究者育成」事業は、平成22年度の文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」プログラムとして採用され、平成22年度に6名(片岡 正典、寺本 真紀、小野寺 健一、三浦 収、椿 俊太郎、Ulanova Dana)が国際公募によりTenure Track(TT)教員として採用されました。さらに、平成25年度に3名(難波 卓司、山田 和彦、田中 秀則)が採用されて現在にいたっております。私が機構長を引き継いだ今年度は、平成22年度採用の6人の最終評価を経てのテニユア採用審査が行われることになっております。6人の若手教員はそれぞれ着々と研究成果をあげ、当初掲げたミッションを達成し、全員がテニユア教員として採用されるものと信じております。

高知大学が、なぜイノベティブマリンテクノロジー(IMT)として海洋の研究分野の若手を育成するプログラムに応募したのかは、平成22年に作成された中期目標に、以下のように記されていることによります。

「高知大学は、高知県を中心とした南四国や近縁の黒潮流域圏の地域特性に根ざした先導的、独創的、国際的な研究を推進し、そこで培われた知見やノウハウや人材を国内外の諸地域にも敷衍させることにより、地域社会、近隣社会と国際社会に貢献する。具体的には、自然及び環境保全と、住民の安全・健康とクオリティ・オブ・ライフ(生活の質)の向上を目指した研究を推進し、人と環境との調和のとれた発展に貢献する。研究のキーワードは、「海」、「環境」、「生命」とする。」

この中期目標と、これまでの海洋生物研究教育施設、海洋コア総合研究センター、応用自然科学専攻や黒潮圏総合科学専攻の大学院、それに理学部・農学部・医学部の海洋科学関連の研究成果を踏まえてイノベティブマリンテクノロジー分野の若手教員を育成採用するということにつながったわけです。これらのTT教員には、今後一層の研究の推進はもちろんのこと、学生や大学院生の教育を担当するという覚悟を持っていただきたいと期待しております。

「マリンバイオテクノロジー」集中講義

平成26年9月8日(月)から12日(金)までの5日間の日程で、テニユア・トラック教員による「マリンバイオテクノロジー」集中講義が行われました。本年度から新たに3名のテニユア・トラック教員が加わり、パワーアップした内容となりました。対象の学生は農学専攻博士前期課程で、テニユア・トラック教員は、自身の研究内容と関連させて、マリンバイオテクノロジーに関係する基礎から応用技術、そして将来展望についての説明を行いました。



山田 和彦 特任講師



寺本 真紀 特任講師



小野寺 健一 特任助教



Ulanova Dana 特任助教



樺 俊太郎 特任助教



片岡 正典 特任講師



三浦 収 特任助教



難波 卓司 特任助教



田中 秀則 特任助教

国際学会等派遣報告(田中特任助教)

2014年3月16日(日)から20日(木)までアメリカ合衆国テキサス州のダラスで開催された「247th ACS National Meeting」に参加し、ポスター発表を行いました。

開催地のテキサス州ダラスはアメリカの西部に位置し、成田からの直行便を使えばおよそ12時間で行くことができます。ACS National Meetingは、アメリカ化学会(American Chemical Society, ACS)によって主催される学会ではありますが、北米を始め、ヨーロッパ、アジアから多くの研究者が参加するのが特徴です。学会期間中、日本から参加している研究者も多く見かけました。

さて、私は「Production of a novel secondary metabolite by using a silent biosynthetic gene from *Chaetomium globosum*」という題目で、物質生産に関わる休眠型遺伝子の強制発現による新規二次代謝物の獲得について発表しました。もともと有機化学が専門で分子生物学が疎い私にとって、その分野の研究者と意見交換できたことは大変勉強になりました。

この学会参加で得られた経験を今後の研究に生かしていきたいと思います。

写真 上:会場外観、写真 下:会場内の様子



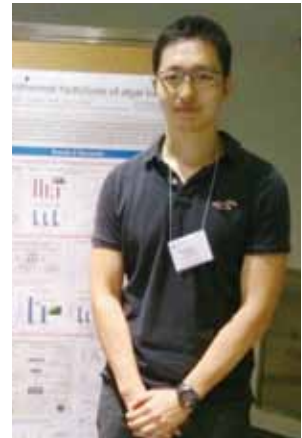
国際学会等派遣報告(椿特任助教)

2014年7月27日(日)から8月1日(金)の日程でゴードン会議・グリーンケミストリー・2014(Gordon Research Conference, Green Chemistry, 2014, 香港中文大学, 香港)が開催された。ゴードン会議は、講演やポスターセッション、研究に関するディスカッションについて、口外してはいけないルールがあるため、本稿では具体的な発表内容については触れず、会議の様子を中心に報告する。

ゴードン会議の中でも、グリーンケミストリーは1996年から始まり、2年おきに米国と欧州で開催されているが、今回、香港にて初のアジア開催となった。会場の香港中文大学は香港の中心部から少し離れた場所に位置し、街の喧騒から離れた落ち着いた会場であった。約170名の参加者があり、米国、英国、中国(それぞれ30名前後)が最も多く、続いてドイツからの参加者が多かった。

会議は午前の招待講演のセッションの後、少し長めの昼の休憩を挟んで、夕方からポスターセッションがあった。さらに、夕食を挟んで、21時半まで夜の招待講演のセッションが開かれた。本会議のテーマが「グリーンケミストリー」ということもあり、講演の内容は多岐に渡り、グリーンエネルギー(バイオマスを含む)や高分子材料、医薬などから、教育に至るまでの幅広いテーマをカバーしていた。招待講演のセッションは第一線の研究者ばかりで、直接話を伺う貴重な機会となった。一方、私はポスターセッションにおいて発表をした。ポスター発表は、ポスドクや博士課程学生の発表が比較的多く、学生に聞いたところ、登竜門としてラボの教授から推薦されて参加しているようであった。

今回、ゴードン会議に参加して、「グリーンケミストリー」の議論にどっぷり浸かった濃密な一週間を過ごすことができた。最後になりますが、本会議の参加にあたってご支援を賜りました、文部科学省「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」プログラムに厚く御礼申し上げます。



ポスター発表の様子

国際学会等派遣報告(三浦特任助教)

2014年10月1日(水)から3日(金)まで韓国の済州島で開かれたThe 2nd Asian Marine Biology Symposiumに参加した。シンポジウムにはアジアの国々を中心として12か国から200人以上の演者が集まり、アジアを中心とした海洋生物学のシンポジウムとしてはとても盛大なシンポジウムであった。特別講義の演者としてドイツからKarsten Reise博士が招かれた。Reise博士は日本語にも翻訳されて干潟生態学者のバイブルとして定評のある「An Experimental Approach to Species Interaction」の著者として世界的に有名な研究者である。Reise博士が行なった講義は、干潟の生物群集を理解する上で偶然性の重要性を説いたもので、内容・構成ともに非常に興味深く魅力的なものであった。

また、アメリカから招かれたJennifer Ruesink博士は、干潟の外来種を総括するような特別講義を行った。アジア圏の干潟の外来種の研究は限られており、実際の侵入状況を把握するためには更なる研究が必要とのことであった。私は干潟の移入種の研究を行っているため、非常に興味深く聞くことができた。また、講義の後には個人的に質問などを行い、交流を深めることができた。

このシンポジウムで、私は東日本大震災の影響調査のセッションで干潟巻貝ホソウミナナの震災前後の生態的・遺伝的比較に関する口頭発表を行った。震災関連の研究で遺伝的手法を用いたものは限られていたため、多くの人の関心を引くことができた。このセッションでは震災関連の干潟生物の最新研究の動向を把握することができ非常に参考になった。また、他のセッションでは、私の興味のある分野である潮間帯生物の進化に関する研究について、とても興味深い研究発表をいくつか聞くことができた。今後の研究へのモチベーションが上がるとても有意義な海外出張であった。



口頭発表の様子

編集・発行

イノベティブマリンテクノロジー研究者育成事業
News Letter No.9

平成26年10月発行

国立大学法人 高知大学
研究国際部研究推進課研究推進特別支援室

〒780-8520
高知県高知市曙町2丁目5-1
総合研究棟3Fプロジェクト共同研究室15
電話: 088-844-8842 / FAX: 088-844-8333
Email: kk41@kochi-u.ac.jp
URL: <http://www.kochi-u.ac.jp/imt/>